

平成20年度 中間評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

年度 当 初			評価結果 (10月)		
評価項目	具体目標	具体方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 主体的な学びの涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の授業以外の学習時間が、理数工学科では2時間以上、工業科では1時間以上となること、3.0未満の生徒の割合が3.0未満となることを目標とする。 ○おもしろ授業、魅力ある授業を創造するために、全教科が年1回以上の公開授業を実施する。 ○生徒対象の学校評価アンケートで「授業の工夫がなされている」に肯定的な生徒の割合が8.0%以上になるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の自宅学習調査や各定期試験毎の個人面談をとおして学習習慣の定着指導を徹底する。 ○授業での生徒の理解度に注意を払いながら個に応じた指導を固りわかりやすい授業を日々工夫する。 ○補習や資格検定指導の充実を図ることです学ぶ意欲の喚起や自主的な学びにつながる。 ○手作り教材の活用やノート点検・個別指導の徹底を図るなどして基礎学力の定着に力点を置いた取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題指導、添削指導、面談指導等の効果が徐々にあらわれてきている。1学期実施の授業以外の学習時間アンケートでは、理数工学科の学習時間が平均1.13分、工業科の学習時間が平均6.1分で、目標値は達成できた。また、全校では3.0未満の生徒の割合も2.9%と、昨年度に比べ減少した。しかし、学年、クラスによる差もあり、日常の学習時間は、目標値には達していない。 ○授業改善の一貫として取り組んでいる全教科、年1回以上の公開授業の実施は計画より進んでいるが、事後の授業研究の時間が確保しづらく、実質的な授業研究にならないのが悩みである。 ○本年度の最重要課題である「主体的な学びの涵養」に沿って課題作成、ノート点検や個別指導に力を入れている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の定着を図るため、自宅での課題を定期的に課していく。また、個々の生徒に対する面談指導の内容や回数等の工夫を定期的にとり、進路意識や目的意識を深め、学習意欲を喚起するよう努める。さらに土・日については自宅学習時間を確保するよう指導する。 ○基礎学力の定着を分かる喜び、学ぶ楽しさが体感できる授業実践のためにも、一方的な講義形式に陥ることなく、また主体的・能動的に取り組む教材作成を開発するなどして、授業改善、指導方法の向上に努めていく。 ○生徒による授業評価アンケートにも個々の生徒の学習状況を振り返る項目を盛り込んでいるが、自らの学習活動を改善し軌道修正する機会とする。 ○引き続き、課題作成やノート点検による個別指導を徹底する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象の学校評価アンケートで「生徒会活動などの生徒の主体的活動を支援している」に肯定的な生徒の割合が7.5%以上になるように努める。 ○部活動の延べ参加率7.0%以上をめざすとともに、県大会入賞者数、中国大会・全国大会出場者が前年度以上となるように努める。 ○強化指定の部を増やめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己理解を深めさせ、生活目標・進路目標を確立させるための複合的な取り組みを進める。 ○生徒の自主性を育成し実践力を伸長するため、委員会活動を各分年・各学年で指導・支援するとともに、生徒と職員が一体となって取り組む。 ○部活動において、生徒の活発な活動を維持するとともに文化部活動の充実(活動内容・活動日の充実、部員数の増加)を支援し、全体的な活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月毎に学年別の生活目標の設定を行い、協力することや集団の中での個々の役割を考えさせ、互いに評価し合っておりよいものをめざして雰囲気醸成していくよう努めている。 ○体育祭、文化祭等の学校行事や各種委員会活動に関し、生徒の主体的な活動の場となるよう、職員が後取りするのではなく可能な限り生徒の企画や運営を尊重し、教職員はそれを支援する方向で臨んでいる。 ○部活動延べ参加率(78%)は目標値を達成できなかったが、文化部の入部状況がよくない。また、中国大会出場は個人30人・団体4チーム、全国大会出場は個人8人・団体4チームとなった。全国大会出場チーム数は4増となり、現在のところ目標は達成できている。 ○昨年度の実績が評価され、従来のバレーボール部、フロンティア部、バドミントン部に加え、バスケットボール部が強化指定部となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭等の学校行事や各種委員会活動では、生徒が主体的に活動できるよう、事前事後指導や連絡・調整のための会を多く設定するなどの工夫を図ることで支援体制を強化する。 ○文化部活動は、自然科学、芸術、地域文化に対する興味・関心を喚起し、創作力や表現力を養成する格好の場である。外部指導者招聘事業等の活用を図ったり競技会や作品発表の場を提供することで、文化部の振興を図っていく。 ○部活動をやめた生徒に対して他グループへの動員及び目的意識についての働きかけを行う。
2. 豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「Q-U調査(楽しい学校生活を送るためのアンケート)」を全生徒に実施し、学年分析から望ましい集団づくりの心がけるとともに支援を要する生徒の把握に努め、不登校や長期欠席者数前年度以下となるよう努める。 ○差別解消に向けて教職員の一人一研修参加10.0%をめざす。 ○日常的に生徒と関わる時間の確保に努め、カウンセリングマインドを持ち、個々の生徒の良きを認めながら意欲喚起を図る個別指導をとおして、生徒理解の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回「Q-U調査」を全生徒を対象に実施し、分析結果を学年や個々の生徒の理解に活用する。 ○教職員自ら研修等をおして自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続けることにも教職員一人ひとりの参加を促す。 ○全職員が当番制で実施している朝の交通安全指導をとおして明るい人間関係を築き、コミュニケーションの第一歩である挨拶運動を進めていく。 ○課題の早期発見、早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Q-U調査は1回実施し、調査結果はクラス毎に返されているが、その活用状況にはばらつきがある。 ○一人一研修参加については、9月末現在で323/77名である。平日に開催される人権啓発研修の参加は授業等の関係で難しいのが実情である。 ○不登校、長期欠席の原因は、集団生活に馴染めない、人間関係のトラブル、学業不振、家庭の問題等様々だが、その数は近年増加傾向にある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○担任・学年主任・教育相談係・スクールカウンセラーと互いに連携をとり、個々に応じたアプローチに努める。また、学校と家庭のより緊密な連携に努め、該当生徒の情報収集を図り、改善策を講じていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心を育む読書活動の一環として、年間の図書貸出冊数が前年度対比1.0%増となることをめざす。 ○各種ボランティア活動の年間参加者数を昨年度以上となるよう努める。 ○命の教育である性教育に関する時間を年間2時間以上確保する。 ○TEAS(鳥取県環境管理システムⅡ種)で掲げている今年度の環境改善目標の達成をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館を利用した授業実践や企画展、図書館便り等の広報活動に努めること図書館に足を運ぶ生徒を多くする取り組みを進める。 ○各種ボランティア活動は、社会の一員としての自覚を深め、生徒の学びや成長に寄与するものであり、積極的参加を推奨する。 ○性教育に関する講演会やLHRをとおして正しい異性観を持ち、意思決定・行動選択のためのスキルを身に付けるとともに自己の自立・共生を目指す。 ○環境美化委員の積極的活用を図るとともに環境教育の周知徹底を図り全生徒の取り組みとなるよう努める。 ○健康づくりのために食の環境整備や食をとおして心育てる観点から食育教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書貸出数は微減傾向であるが、展示企画や調べ学習、自主勉強等図書館を利用する者は少しずつ増加している。 ○社会貢献活動については、老人福祉施設ボランティア5名、あしなが募金活動14名、エコボランティア20名、夏のテラボランティア31名など自主的参加が増えている。社会問題解決のために自発的・主体的な行動の必要性を感ずる生徒が徐々にあらわれているが、他者への理解や共感の輪が広がっていない。 ○科学的な知識の習得やお互いの性を人権として認め合い導きあう人間関係の大切さを認識させるための研修を継続的に取り組んでいる。既に学年別性教育講演会を開催したが、12月・性教育LHRを実施する予定である。 ○TASの目標達成については、使用電力が増加傾向にある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読書感想文の優秀作品を表彰したり、図書館便りでの啓蒙をとおして読書の大切さを訴えていく。また、調べ学習にも関連する本の活用を図る。 ○社会貢献活動については概ね目標を達成している。教職員から社会貢献活動の意義や社会人としての役割等について働きかけを行ったが、継続的にボランティア活動や募金活動等のボランティア活動参加の奨励を行う。 ○性教育LHRに向けて学年ごと事前研修会を実施し、職員研修で学んだことを反映させて教材研究の実施を図る。 ○使用電力の増加原因を調査して改善する。
3. キャリア教育の充実と進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象の学校評価アンケートで「資格取得や検定のための指導に積極的に取り組んでいる」に肯定的な生徒の割合が8.0%以上になるように努める。 ○各種資格取得、検定を奨励し、専門教科への関心を深めるとともに進路決定に役立てる。合格者数前年度対比5%増をめざす。 ○ものづくりコンテスト等の各種競技会への積極的参加を促し、HP等にも結果報告や感想文を交えた記事をタイムリーに掲載する。また、競技会入賞者の数を前年以上となるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資格検定年間スケジュールを提示し、専門教育部をとおして各種検定の案内・申し込みの集約を行うとともに受験者・合格者のデータ化を図って意欲喚起につなげる。 ○的確な技術指導ができるよう、企業での教職員研修等を継続実施していく。 ○各科目毎の課題研究発表会をとおして探究心や表現力を養成するとともに複数の科にまたがったテーマを設定し実施する。 ○明確な職業意識や勤労観を養うために企業見学会を2、3年生を対象に実施してきたが、今年度から早期からの意識喚起の必要性から1年生からの実施とする。 ○工業学科2・3年生を対象とした3日間インターンシップに加えて、3年生の希望者を対象とした長期休業中5日間インターンシップを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種検定の受験の奨励、そのための特別補習の継続的な指導に努めているが、生徒の意欲に大きな差があり、近年二極化の傾向が顕著になっている。 ○今年度初の試みとして、複数の科(機械科・制御・情報科・電気科)合同による課題研究テーマを設定し実施している。 ○従来、企業見学会を2、3年生を対象に実施してきたが、今年度から企業の実態把握や進路意識喚起の必要性から全学年を対象に実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得のための積極的な指導がなされており、学業を越えた指導も実施されている。また、専門的な知識の深化や学習に対するモチベーションを高めるための取り組みとしていく。 ○各科目毎の課題研究発表会をとおして探究心や表現力を養成するとともに、2月に予定している合同課題研究発表会に向けて指導を徹底し、内容の充実を図る。 ○平成21年度までのつくりコンテスト等の各種競技会への取り組みが始まり、挑戦する機会を醸成し、学んだ技術の発展的な取り組みを推進する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象の学校評価アンケートで「きめ細かな進路情報の提供や個々に応じた進路指導を行っている」に肯定的な生徒の割合が8.0%以上になるように努める。 ○3年間を見通した進路指導を行ない、自己の適性を理解した進路選択ができる力を養い、そのための進路に関するLHR時間確保し、2年生は年間5時間以上、3年生は年間7時間以上確保する。 ○年間進路・欠席者数を前年度対比5%減をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年毎に進路LHR、進路説明会・模試・諸検査等を行い、進路意識を高め個々の進路に応じた適切な指導を行う。 ○保護者の体験に学ぶ会、企業見学会、現場体験学習、社会人講師等をおして生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる能力を育てる。 ○進路指導の充実方策の一環として、1学期中に進路指導担当職員に加えて各科目職員による企業訪問を実施し情報交換をとおして連携を密にする。 ○遅刻・早退・欠席削減のため遅刻・早退カードの活用や保護者への連絡を徹底するとともに全職員による朝の挨拶指導を実施する。 ○学年別月間学習目標を提示し、生徒が目標達成に向けて努力し、考え、工夫する契機とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業観や勤労観の高揚を図り、進路目標を明確にするため、進路LHRを1、2年生は年間5回、3年生は年間9回設けて、3年間を見通した進路指導を行っている。 ○本年度より1年生を対象に「企業見学会」と「保護者の体験に学ぶ会」を実施したが、早期に生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できるような環境づくりを行っている。 ○進路指導の実現や依頼の一環として、今年度新たに1学期中に進路指導担当職員に加えて各科目職員による企業訪問を実施した。卒業生の現状や企業の実態等に関する情報交換を行うことで、連携を密にしている。 ○服装指導や挨拶指導と併行した朝の交通安全指導は、全職員が当番制により計画どおり継続実施している。遅刻、欠席については近年顕著な改善がみられるが、挨拶の返えい生徒や注意を繰り返さないルールを守れない生徒が一部にあるのが実態である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生に対しては、「進路LHR」や「社会人としての基礎職業講座」を実施して、社会人としての心構えを醸成していく。 ○1、2年生に対しては、「進路LHR」や「進路説明会」等をおして生徒の進路意識の高揚を図り、調べ学習なども取り入れ自発的に進路決定できる能力を引き続き養っていく。 ○基本的な生活習慣を確立するために、その場で指導するなど一貫した指導方針のもと全職員が一致して継続した指導にあたる。それと同時に家庭の協力が得られるよう日常的に連絡を密にする。
4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○地域産業の担い手育成プロジェクト事業での懸念事項である専門性を生かした分野での企業実習となる日本版デュアルシステムへの導入についての検討を進める。その際1学期中に先進校視察を実施する。 ○工業各科で4社以上の企業訪問を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域産業の担い手育成プロジェクト事業が2年目を迎えるが、教育プログラムの検証、熟練技術士の招聘、技術向上を目的とした教職員研修、企業でのインターンシップ等の具体的な実践に取り組む。 ○企業との合同課題研究の本格実施を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域産業の担い手育成プロジェクト事業」の一環として、先端技術を見聞したり、働くことの意味や可能性を考えた機会とするため、従来の工業学科2・3年生を対象に実施していた企業体験学習を3日間が5日間拡大した。さらに、ものづくりの実践力を養成するため、3年生の希望者を対象とした夏季休業中5日間開催のインターンシップを新規に実施した。 ○工業科2・3年生全員対象の企業体験学習の受け入れ企業は44社で、夏季休業中に実施したインターンシップ受け入れ企業は2社で参加者は5名であった。また、熟練技術士の招聘事業も成果が実り技能検定合格率は7.5%であった。 ○機械科と制御・情報科と企業との合同課題研究に取り組み、順調に推移している。企業訪問も15社行いほぼ目標を達成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日本版デュアルシステム導入に向けて、戸畑工業高校と徳山商工高校の先進校視察を行った。現在、次年度試行実施に向けた具体的な方策(実施時期、実施内容)を検討し、年度内に決定する。 ○熟練技術士の招聘、企業との合同課題研究も引き続き積極的に行っている。 ○「地域産業の担い手育成プロジェクト事業」で実施している各種事業の検証を行い、より効果的になる方策を検討する。また、本事業終了後の支援体制についての協議を開始する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域代表対象の学校評価アンケートで「地域と積極的に連携している」に肯定的な人の割合が7.5%以上になるように努める。 ○学校公式HPの更新回数を前年度以上とする。 ○学年別懇話会、学校懇話会等の1年間のPTA行事の平均参加者の割合が前年以上となるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各科で研究、製作したものを文化祭の「鳥工TEC」で展示し、地域住民に参加を呼びかける。 ○各科合同課題研究発表会を学校外で実施し、広く県民に公開する。 ○地域の中学生を対象とした「ものづくり教室」や近隣の小学生を対象とした「科学遊び広場」を実施し、ものづくりの魅力を発信する。 ○学校公式HPの刷新を図り、情報活動を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥工TECでは作品展示だけではなく、各科が参加型のメニュー設定の工夫に努めている。 ○制御・情報科が東中の3年生25名を対象に、「技術家庭」の出前授業を9月に2時間実施し、80%以上の生徒がやりやめく長く理解できたと言えよう好評であった。 ○夏季休業中に近隣の小学生5名、6年生を対象に実施した「鳥工科学遊び広場」に25名の参加があった。 ○今年度学校公式HPを新規作成し、内容充実を図った。現在、更新回数が昨年度より1.0%程度上回っているが、今後も情宣活動に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各科合同課題研究発表会を開催し、広く県民に「課題研究」の成果を公開し、工業教育の魅力を発信する場とする。 ○チャレンジ精神育成のため、2年生を対象に講演会を11月に実施する。 ○地域産業界と連携した実践的役割づくりを実施し、技術・技能の伝承、地域の特色を生かした工業教育の改善・充実を図る。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]